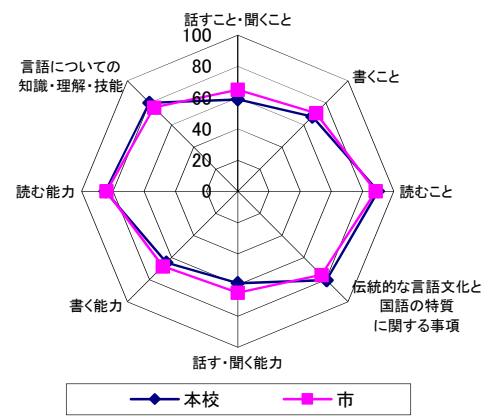


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	58.9	65.0	62.9
	書くこと	67.6	70.9	71.3
	読むこと	89.9	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.4	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	58.9	65.0	62.9
	書く能力	64.7	68.0	68.0
	読む能力	84.9	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	80.2	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

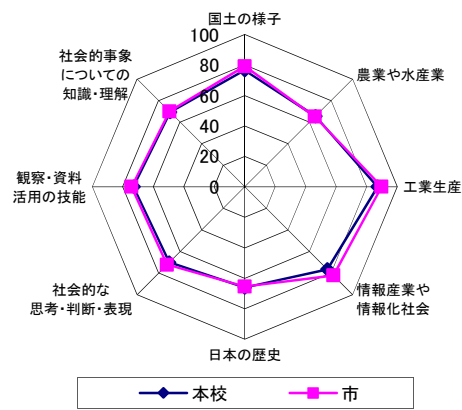
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、他の領域よりも低い。 ○話し合いの内容を聞き取る問題において、解答を選択する問題では、市の正答率とほぼ同じである。隣席の人やグループでの話し合いの機会を意図的に授業に取り入れ、実施してきた成果であると考えられる。 ●話し合いの内容を聞き取る問題において、記述式の問題では、市の平均正答率に比べて低く、国語全体の中でも特に低い。司会者の役割として、進行させることは普段から行っているため理解しているが、それ以外にも計画的に話し合いを進めるという役割があることを理解していないことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手が話をしている時に、黙って最後まで聞き、話し手の意図を考えながら聞くことができるように指導する。 ・各教科や学級活動などにおいて話し合いを進める中で、司会者の役割として「計画的に話し合う」ことを意識して行えるように進行の仕方を掲示したり、いつでも手元で確認できるようにカードを作成したりして、無理なく身に付けさせられるように指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○指定された長さや段落構成で文章を書いたり、2つのうち良いと思う方を選んで書いたりすることはよくできた。 ●資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を理解することや、理由をそれぞれの違いがわかるように書くことに課題が見られる。	・授業中に自分の考えや選んだ理由などを書く活動や伝える活動を多く取り入れ、書く内容をよく理解して取り組めるようにし、相手を意識した文章が書けるよう指導する。 ・今後も、朝の学習や家庭学習などで日記指導や自由作文などを取り入れ、気軽に文章を書く活動に取り組みませ、文章を書くことに抵抗感をなくすようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均正答率に比べてやや高い。 ○物語の内容や説明文の内容を読み取ることはよくできている。ジャンルを問わず、読書を好んで行う児童が多いからであると思われる。 ●登場人物の心情を読み取る問題に課題が見られる。	・今後も、読書や読み聞かせの機会を取り入れ、多くの書物に触れさせるようにする。 ・授業の中で、登場人物の心情について話し合い、他の人がなぜそう考えるのかを聞く機会を与えたり、道徳や学級活動などの時間に、自分や他の人の気持ちについて考えたり話し合ったりする活動を増やすようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均正答率に比べて高い。 ○第5学年配当漢字・第6学年配当漢字を読むことはよくできていた。漢字ドリルを活用し、繰り返し練習に取り組んだり、漢字オリンピックなどにより練習をする機会を多くもてたことが成果と考えられる。 ●第5学年配当漢字を書くことに課題が見られる。	・今後も、漢字ドリルなどを利用して繰り返し漢字の練習に取り組ませていく。 ・漢字を学習しても、時間の経過と共に学習内容の記憶が薄れていっている傾向にあるので、学習したその時だけでなく、継続的に練習に取り組ませていき、既習の漢字は、様々な場面で活用することができるよう指導する。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.5	79.1	74.9
	農業や水産業	65.5	65.1	63.7
	工業生産	87.1	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	76.6	82.2	73.1
	日本の歴史	66.1	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.2	72.2	69.0
	観察・資料活用・技能	73.0	74.3	69.2
	社会的な事象についての知識・理解	69.3	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

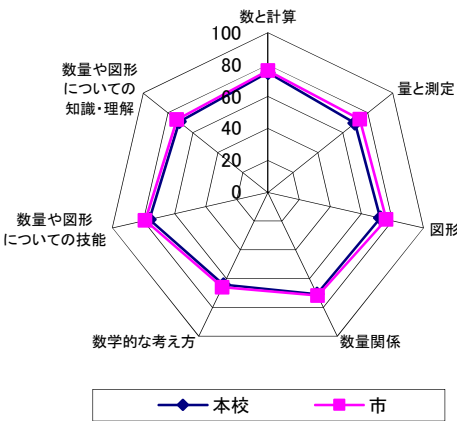
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均正答率に比べてやや低い。 ○林業に関わる問題や防災意識の大切さについて答える問題は市の正答率を超えてきている。 ●日本の国土については正答率が5割程度と知識の定着に課題が見られる。 ●領域別の正答率をみると二極化が見られる。知識の定着に差がある。	・日本の国土や周辺の海洋名、主な国の名称と位置については5年生の学習内容であるので、6年生の歴史の学習と関連付けて復習できるようにする。 ・知識の定着に二極化が見られるので、補充プリントで定着を図ったり、世界地図や日本地図などを掲示していつでも児童が資料を目に出来るようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○食料自給率と食料輸入額の関係について、複数の資料を読み取り答えることがよくできている。 ●国産と外国産の農産物の値段の違いは、耕地面積や生産方法の違いであることを資料から読み取り、文章で記述する問題では、正答率は4割程度と課題が見られる。	・資料から分かったことや他の資料と関連付けて分かったことを、理由や根拠を明らかにしてまとめたり説明したりする活動を継続的に行うことで、思考力や表現力、資料を読み取る力を伸ばしていく。 ・農業や水産業を自分たちの生活と関連付けて考えられるような学習活動の工夫をする。 ・生産者や消費者の視点から多角的に食料生産について考えられるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率と比べてやや低い。 ●領域別の正答率をみると二極化が見られる。知識の定着に差がある。	・5年生の学習では、日本と他国を比較して考えることで日本の工業生産の特徴を考えられるようにする。地図帳や資料集を積極的に活用する。 ・6年生の歴史の学習では、文明開化後の殖産興業や高度経済成長から工業生産について5年生の学習内容を復習できるようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均正答率に比べ低い。 ○マスメディアの種類について答える問題は市の正答率とほぼ同じ程度で、8割を超えた。 ●医療での情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考える問題は、市の平均正答率を大きく下回り、課題が見られる。	・情報ネットワークやインターネットの利便性を自分たちの経験や生活の中から見つけたり、メリットやデメリットを考えたりすることでネットの利便性や特徴について理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○農耕が始まったころの人々の生活の様子や、大仏造営を命じた聖武天皇の願いについて答える問題はよくできている。 ●織田信長の天下統一に向けた政策や文明開化について答える問題は、正答率が3割に届かず課題が見られる。無回答も他の問題と比べると多い。	・歴史上の人物が行った政策や歴史上の出来事について、その時代の様子や人々の生活、時代の変化などと関連付けて考えることで、政策の意図や出来事の背景を捉えられるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.1	76.2	72.9
	量と測定	69.6	73.6	70.6
	図形	72.2	76.0	72.1
	数量関係	70.7	71.8	66.9
観点別				
	数学的な考え方	64.2	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	76.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	71.1	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

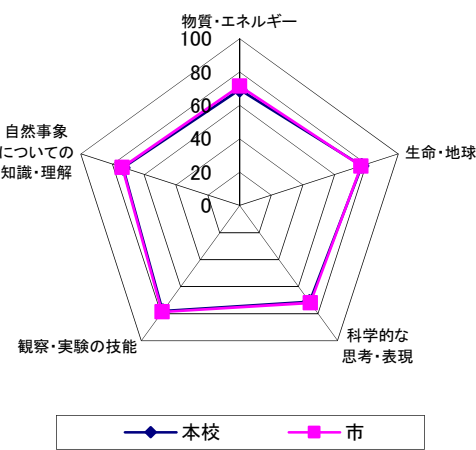
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、他の領域より高い。 ○計算について、市の平均をやや下回るものの、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。宿題や朝の学習を活用して、繰り返し計算練習を行った成果であると考えられる。 ●小数の除法の文章問題を表した図を正しく選ぶことはできたが、図から正しい式を導き出すことに課題が見られる。	・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していく。 ・問題解決をするときの手段として、各学年の授業で、数直線を用いて数量関係を視覚的にとらえて考え、立式できるように指導する。
量と測定	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○2人の作業の速さを比較し、判断の理由を説明することがよくできている。授業の中で、自分の考えを書いたり説明したりする活動を積極的に取り入れてきた成果であると考えられる。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取って面積を求めることや直方体を組み合わせた形の体積を求めることに課題が見られる。	・今後も、問題解決をするときの手段として、数直線や図を用いて数量関係を視覚的にとらえて考え、立式できるように指導するとともに、授業の中に自分の考えを書く活動と伝える活動を多く取り入れ、筋道を立てて説明する力を育てるようにする。学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。 ・図形の面積や体積を求める公式など、各学年で学習する内容を身に付けることができるように、繰り返し指導する。
図形	平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。 ○合同な三角形を作図することがよくできた。習熟度別学習を生かして、個に応じた学習を行ってきた成果であると思われる。 ●線対称や点対称の図形を選ぶことや線対称の図形の対称の軸の数を求めることに課題が見られる。	・今後も、習熟度別学習を取り入れ、少人数での作図指導を丁寧に行ったり、朝の学習や家庭学習で繰り返し問題に取り組ませたりする。 ・各学年の授業で、体験的、操作的活動を通して図形の定義や性質を考え、自分の言葉で説明し合うなどの言語活動を取り入れて、図形の知識を定着させる。
数量関係	平均正答率は、市の平均正答率に比べてやや低い。 ○帯グラフから割合を読み取り、比較量を求めることがよくできた。 ○文字を使った式が表す場面を選んだり、比例の関係をXとYを使って式に表すことがよくできた。 ●反比例については理解が不十分である。	・帯グラフや円グラフは割合を表すグラフであるという特徴や目盛りの読み方を丁寧に指導する。また、社会や理科などの他教科と関連付け、グラフを読み取る活動を多く取り入れる。 ・問題文から読み取ったことを図や表、数直線に表して数量関係を式に表し、自分の考えを互いに説明し合う活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.5	71.6	67.4
	生命・地球	77.0	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	71.4	72.1	68.8
	観察・実験の技能	78.1	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	73.5	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「電流のはたらき」の、「電流と電磁石の強さの関係」の問題や、「水溶液の性質」の、「塩酸に与える金属」の問題でのつまづきが目立った。	・再実験等の実習は難しいので、補充プリント等で再確認をさせたい。また、教室掲示資料を作り、各教室に掲示するとともに、家庭での自主学習のテーマのヒントにさせたい。
生命・地球	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の、だ液のはたらきを調べる実験の、条件統一の方法について理解できていない傾向が見られた。	・「条件の制御」は、小学校5年生のテーマであり、中学校での理科学習にも欠かせないものなので、プリントや掲示資料等で再確認させたい。

宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実	算数の「数と計算」の領域では、市の平均正答率をやや下回るものの、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。 ・学年に応じて自主学習に取り組み、手本となるノートを紹介する。	3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は80%台であり、どの学年も市の平均を下回っている。「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は60%程度である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県の調査とともに算数の「数と計算」の領域において平均を下回っていたが、市の調査では、4月の全国学力調査の結果と比べて差が縮まっている。分数のたし算やわり算では、市の平均正答率を上回った。次年度も継続して、朝の学習や家庭学習の充実を図ったり、授業改善に向けた取り組みをより充実させたりして、基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を行う。

・市の調査において、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は80%台であり、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は60%程度である。6年生では、国の調査において「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間勉強するか」という質問では、1時間以上勉強すると回答した児童は54%であったが、市の調査では、72%に増加した。次年度は、引き続き「家庭学習強化週間」を実施し、学年に応じた自主学習に取り組む指導を充実させる。